

ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹の有核粒率や果粒形質向上のための総合葉面散布剤の散布適期

〔要約〕 ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹への総合葉面散布剤 500倍の展葉期から葉 7～ 8枚期の散布は新しょうの初期伸長や有核粒率を促進させ、果粒肥大、果皮色、糖度などの果粒形質を向上させる。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

資料名：平成10年度 長崎県果樹試験場業務報告

#### 〔背景・ねらい〕

ブドウ「巨峰」の有核果粒率や1粒重を向上させるためには新しょう葉を早く伸長・展開させ、開花前までに葉数を十分に確保することが大切である。ウイルス無毒樹は保毒樹に比べ樹勢が旺盛で、新しょう伸長が不揃いで開花後も新しょうが伸長する。その結果、新しょうと果粒との養分競合が起こり、小果粒化の傾向にある。生産現場では、開花期までに新しょうを伸長させ葉数を確保し、開花期から着粒期には新しょう伸長を停止させ、有核粒率及び果粒形質向上さの目的で液肥の葉面散布が行われている。しかし、その時期が不明であるため十分なる効果を発揮していない。また、おそ伸びを助長している場合さえある。そこで、展葉期から新しょう伸長期までに時期別に総合葉面散布剤 500倍を散布し、散布効果と最適散布時期の検討を行う。

#### 〔成果の内容・特徴〕

- ①展葉期から葉 7～ 8枚期の早い時期の散布は新しょうの初期伸長が良く、満開後の伸び率が低く、収穫期の葉面積指数も 2程度である。散布の遅い区は新しょうの初期伸長が遅く、満開後の伸び率が高く、収穫期の葉面積指数も約 3である（表1）。
- ②展葉期から葉 7～ 8枚期の早い時期の散布は有核果粒率が高く、1粒重が重く、果皮色が優れ、糖度も高い。散布が遅くなるに従って有核果粒率が低下し、1粒重が軽く、果皮色が悪く、糖度が低い（表2）。
- ③早い時期にメリット青液剤 500倍を散布することにより、新しょうを早期伸長させ、開花期以後は新しょう伸長を停止させて、花振るいを低下させることにより有核粒率、果粒形質が向上する。

#### 〔成果の活用面・留意点〕

- ①ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹で活用できる。
- ②総合葉面散布剤はメリット青 500倍を使用したことから、他の総合葉面散布剤の効果は不明である。

[具体的データ]

表1 メリット青剤の散布時期と新しょう伸長及び葉面積指数との関係

区	散布時期(月・日)				新しょう長 (cm)			伸び率 (%)		葉面積指数 (LAI)		
	4・6 <sup>2</sup>	4・14 <sup>4</sup>	4・21 <sup>*</sup>	4・27 <sup>*</sup>	満開期①	50日目②	70日目③	②/①	③/①	満開期	50日後	収穫期
I	○	○	-	-	52.7	58.0	68.5	1.1	1.3	1.34	1.65	2.04
II	-	○	○	-	40.7	57.0	79.8	1.4	2.0	1.36	1.84	2.36
III	-	-	○	○	41.9	62.9	106.9	1.5	2.6	1.28	2.01	2.95
IV	-	-	-	-	36.3	40.0	52.0	1.1	1.4	1.12	1.52	2.09

<sup>2</sup> 展葉期、<sup>4</sup> 7~8枚期、<sup>\*</sup> 9~10枚期、<sup>\*</sup> 10~11枚期

注) メリット青剤の成分: 窒素全量 7.0%、水溶性リン酸 5.0%、水溶性加里 3.0%  
水溶性マンガ 0.1%、水溶性ほう素 0.2%

表2 メリット青剤の散布時期と着粒及び果粒形質との関係

区	散布時期(月・日)				有核粒数 (個)	有核粒率 (%)	1粒重 (g)	果皮色 <sup>2</sup>	糖度	酸含量 (g/100mL)
	4・6 <sup>2</sup>	4・14 <sup>4</sup>	4・21 <sup>*</sup>	4・27 <sup>*</sup>						
I	○	○	-	-	29.1	24.3	13.2	10.0	20.5	0.339
II	-	○	○	-	20.7	17.3	12.2	9.8	19.5	0.367
III	-	-	○	○	18.6	15.5	12.6	9.5	19.0	0.384
IV	-	-	-	-	26.3	21.9	11.9	9.7	19.5	0.341

<sup>2</sup> 黒色ブドウのカラーチャートによる

<sup>4</sup> 展葉期、<sup>\*</sup> 7~8枚期、<sup>\*</sup> 9~10枚期、<sup>\*</sup> 10~11枚期

[その他]

研究課題名: ブドウウイルス無毒樹の栽培技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成10年度(平成7年~11年)

研究担当者: 森田 昭・林田誠剛

既発表論文等: なし